

愛玩動物看護師法の概要

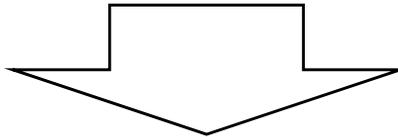
資料1-2

本法案提出の背景

- ・ 獣医療の内容の高度化、多様化→診療現場でのチーム獣医療に果たす役割への期待
- ・ 犬・猫の飼養頭数は、15歳未満人口を上回る約2000万頭→飼い主による健康管理やしつけの重要性
- ・ 動物を介在した福祉、教育等の諸活動への期待

愛玩動物に関する

- ・ 獣医療の普及・向上
- ・ 適正な飼養



民間の統一資格保有者：約2万人

本法の主な内容

愛玩動物*の看護等の業務に従事する者の資質向上・業務の適正を図るため、愛玩動物看護師の資格を定める
*愛玩動物：獣医師法第17条に規定する飼育動物のうち、犬、猫その他政令で定める動物

愛玩動物看護師の業務

- ・ 獣医師の指示の下に行われる愛玩動物の診療の補助
(獣医師法第17条の規定にかかわらず実施可能)
- ・ 愛玩動物の世話その他の看護
- ・ 愛玩動物の愛護・適正な飼養に係る助言その他の支援

- ・ 愛玩動物看護師又はこれに紛らわしい名称の使用制限

愛玩動物看護師の免許

- ・ 愛玩動物看護師国家試験に合格
- ・ 主務大臣の免許
- ・ 主務大臣は、登録機関及び試験機関を指定できる
- ・ 知識の修得等の受験資格を規定

主務大臣：農林水産大臣及び環境大臣

愛玩動物看護師の受験資格について

愛玩動物看護師資格（登録）

合格

愛玩動物看護師試験

【通常ルート】

大学で主務大臣^(※1)が指定する科目を修めて卒業（31条1号）

省令で定める基準に適合する養成所^(※2)で、3年以上愛玩動物看護師として必要な知識・技能を修得した者（31条2号）

外国の関連学校等の卒業者又は外国で愛玩動物看護師免許に相当する免許取得者で、主務大臣が31条1号又は2号の者と同等以上と認めた者（31条3号）

修了^(※3)

合格
(附則2条2号)

主務大臣^(※1)が指定する講習会（附則2条1号）

【特例措置（既卒者）】

大学で主務大臣^(※1)が指定する科目を修めて、施行日前に卒業した者（附則2条1号イ）

養成所^(※2)で愛玩動物看護師として必要な知識・技能（診療の補助を除く）の修得を、施行日前に終えた者（附則2条1号ハ）

【特例措置（在学者）】

施行日前に入学した大学で主務大臣^(※1)が指定する科目を修めて、施行後に卒業した者（附則2条1号ロ）

養成所^(※2)で愛玩動物看護師として必要な知識・技能（診療の補助を除く）の修得を、施行後に終えた者（附則2条1号ニ）

予備試験^(※4)
(附則3条1項)

修了

主務大臣^(※1)が指定する講習会（附則3条2項）

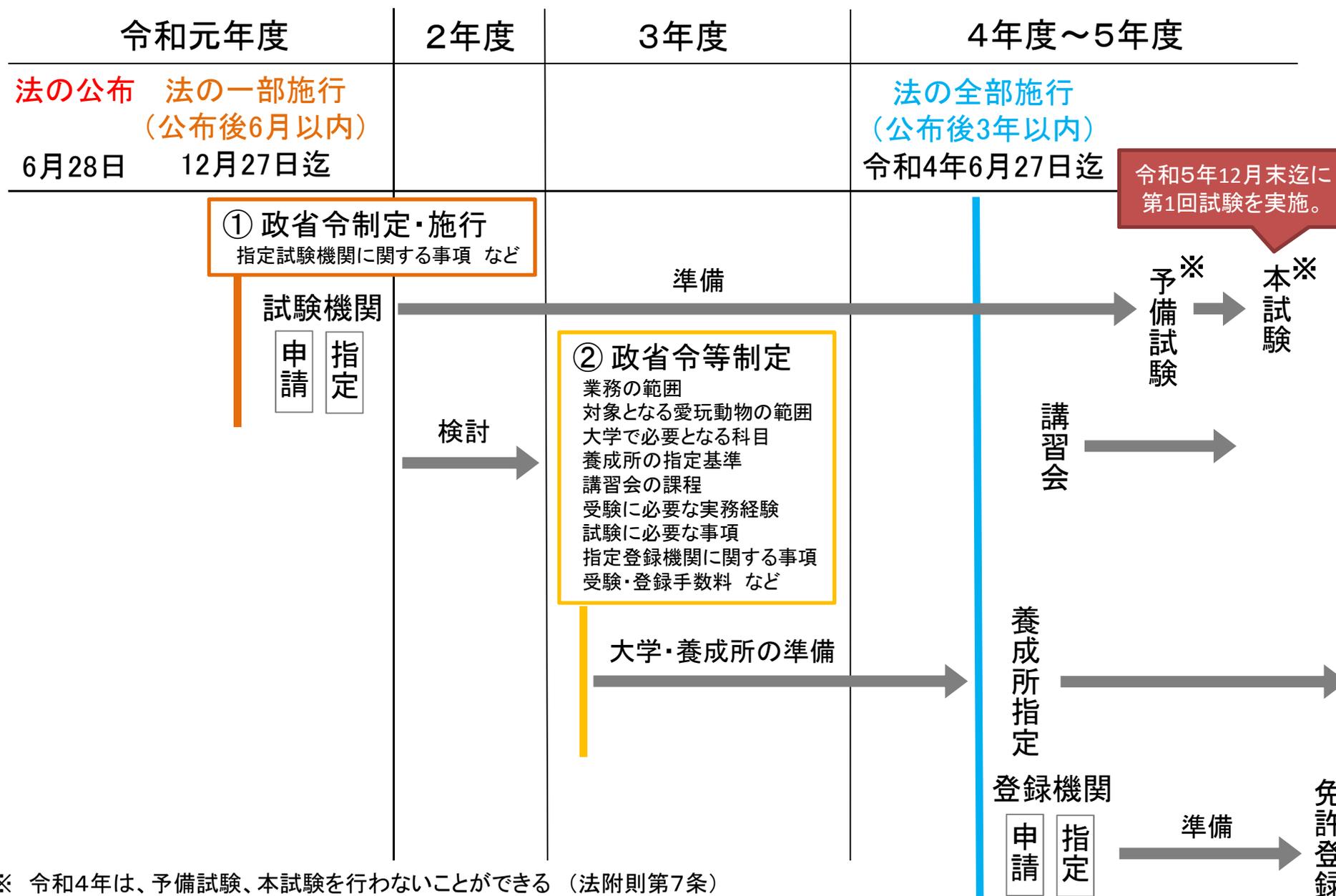
【特例措置（未就学者）】

愛玩動物看護師の業務（診療の補助を除く）に係る実務経験5年以上を有する者又は主務大臣^(※1)がこれと同等以上の経験を有すると認めた者（附則3条2項）

- ※1 農林水産大臣及び環境大臣
- ※2 都道府県知事が指定
- ※3 施行日から5年を経過する日までに修了
- ※4 施行日から5年を経過する日まで、毎年1回以上実施

愛玩動物看護師法 施行スケジュール(想定)

令和元年9月時点



※ 令和4年は、予備試験、本試験を行わないことができる (法附則第7条)

愛玩動物看護師の業務範囲の考え方（イメージ）

獣医療

診療

- 手術、X線検査、診察等に基づく診断など

獣医師のみ
実施可能

診療の補助

- **獣医師の指示の下に行う**採血、投薬（経口など）、マイクロチップ挿入、カテーテルによる採尿など

愛玩動物看護師のみ
実施可能
(獣医師も引き続き実施可能)

その他の看護

- 入院動物の世話、診断を伴わない検査など

動物の愛護及び適正な飼養に関する業務

- 動物の日常の手入れに関する指導・助言（グルーミング、爪切り、歯磨き等）
- 人と動物の共生に必要な基本的なしつけ（適切な社会化を促す為の教室の開催）
- 動物介在教育（AAE）への支援（小学校等を訪問し学習活動をサポート）
- 動物介在活動（AAA）への支援（高齢者施設等でのセラピー活動）
- 動物飼養困難者（高齢者等）への飼育支援（家庭訪問、電話等で飼育に関する助言）
- 災害発生時の被災動物適正飼養の為の支援（地方自治体との連携協力）
- 動物のライフステージに合わせた栄養管理（ペットショップ等での食事相談）

など

愛玩動物看護師以外も
実施可能

その他一般業務

- 診察受付・院内の衛生管理・備品の在庫管理など

愛玩動物看護師の業務